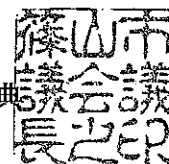


篠山市長 酒 井 隆 明 様

篠山市議会議長 河 南 克 典



「第2次篠山市総合計画（案）」について（申し入れ）

標記の件について、篠山市議会総合計画調査特別委員会にて、慎重に調査した結果、下記のとおり申し入れる。

記

1. 「第2次篠山市総合計画（案）」で掲げる将来像「人・自然・文化が織りなす食と農の都～篠山の時代をつくろう～」の理念の共有をしっかりと図られたい。

第2次篠山市総合計画（案）で掲げるまちの実現に向けては、計画（案）にも記述があるように行政と市民との協働が不可欠であり、そのためには目指すまちの将来像を共有することが大切である。しかしながら、その将来像では、「食」と「農」の言葉について、一般的な意味ではなく、象徴的にまちづくりの概念として用いられており、平成21年2月に制定したばかりの「丹波篠山 農都宣言」等含め、それぞれの言葉の意味が混同される恐れもある。こうした中においては、まちづくりのリーダーと期待される市職員が「食と農の都」等の理念をしっかりと理解し、「丹波篠山スタイル」を共有する中で、市民に伝導し、市をあげた取り組みとなるように努められたい。

2. 地域主権改革の推進等の動きを踏まえ、持続可能な行政経営体の構築に取り組まれたい。

国においては、権限委譲や一括交付金化等の地域主権改革が推進されつつあり、今後、地方自治体の裁量が拡がる一方、責任は大きくなる。また、住民にとって最も身近な基礎自治体として、地域の実情や住民ニーズを踏まえつつ、住民に対し責任ある行政経営を進めていく必要がある。このため、第2次篠山市総合計画基本構想（案）の行政マネジメントの項目中に、持続可能な組織体制の構築や職員養成等の「行政マネジメントできる体制づくり」についての記述を加え、具体的な施策に取り組まれたい。

3. 本市では少子高齢化・人口減少社会への動きが加速している。その対策として、若年層の増加等に具体的かつ積極的に取り組まれない。

本市における人口減少及び人口構造の変化により、平成32年には人口ピラミッドは若い世代が少なく高齢者が多いという逆三角形に近い形となることが予測されている。これまで以上に、熟年層や女性層が活躍できる仕組みをつくとともに、少しでも緩やかな人口ピラミッドとするための具体的かつ積極的な施策に取り組むことで、支え合う地域社会の構築を図りたい。

4. 真に実効性のある総合計画とされたい。

絵に描いた餅と揶揄される総合計画としないために、以下の取り組みを確実に遂行されたい。

- ・進捗状況の公開等、効果的な進行管理（PDCA）体制の構築
- ・財政状況や社会情勢を考慮し選択・実施する「実施計画」の早期策定
- ・実施計画を基にした予算の編成
- ・社会環境の変化に対する計画の柔軟な見直し

5. 施策指標の設定について、施策目標との整合性や指標値の妥当性の視点から精査されたい。

施策指標については、施策目標との乖離やその指標値が現状と乖離している等、その設定に疑問のあるものも見受けられることから、さらなる精査を行われたい。

6. 委員会調査における各意見についても精査されたい。

各分科会や全体会審査等での意見についても精査を行い、必要な修正を行われたい。